

「自然と共に生きる豊かな産業・文化都市」の実現に向けて

1. はじめに

弘前市は、青森県の西南部に位置し、平成18年2月に旧弘前市・岩木町及び相馬村の3市町村が新設合併して誕生した、総面積523.60km²、人口約19万人を擁する津軽地域の中心都市です。

西に青森県最高峰の秀峰岩木山を有し、南には世界遺産白神山地が連なっています。市域を北流する岩木川流域の肥沃で広大な津軽平野は県内屈指の穀倉地帯を形成しており、また、平野周辺の丘陵地帯には全国の20%、日本一の生産量を誇る弘前りんごの樹園地が広がっています。

本市は、築城400年に迫る弘前城、藩政期の面影を残すまちなみ、明治・大正期の洋館、日本一のさくらまつり、重要無形民俗文化財のねぶたまつり、五穀豊穡を祈願するお山参詣や伝統工芸の津軽塗など、有形無形の歴史的・文化的資源が数多く継承されている観光・文化都市であり、国立大学並びに二つの私立大学等を有する学園都市でもあります。

2. 弘前市総合計画

本市は、本年1月に今後の弘前市の道しるべとなる「弘前市総合計画」を策定しました。

新たな総合計画は、豊かな地域資源を生かし、次代の繁栄に繋げるため、目標を「自然と共に生きる豊かな産業・文化都市」としました。

目標の実現に向けて据えた計画の柱は、「未来を

育む学術と文化のまちづくり」、「人とふれあい、人が輝く健康のまちづくり」、「地域資源を生かした豊かな産業のまちづくり」、「安全・快適なあずましい^(※)まちづくり」及び「都市基盤の充実した住みよいまちづくり」の5つの政策です。

また、市民と行政の協働を中心とする「市民参画と協働のための仕組みづくり」と、行財政改革等を柱とする「計画を推進するための仕組みづくり」を、政策全体を下支えする「2つの仕組みづくり」として位置づけたことが大きな特徴となっています。

いま一つの特徴は、総合計画の策定と同時に、32の施策の優先順位を明確化し公表したことです。

現在、本市を含め地方自治体は、大きな社会経済環境の変化に直面し、厳しい行政運営を強いられています。

そうした環境のなかで魅力あるまちづくりを推進するためには、これまで以上に、財源や人材などの行政資源を有効に配分することが求められます。

そのため、平成23年度までの前期基本計画期間の優先順位として、「子育て環境の整備」、「保健・医療の充実」、「農林業の振興」、「観光・物産の振興」などの施策を上位に設定し、その優先度に基づいた資源配分と現実的な施策目標の設定を行うこととしました。

弘前市長 そう ま しょう いち
相馬 鋳 一



3. 地域活力の創出と都市再生の推進

優先順位の上に「農林業の振興」及び「観光・物産の振興」を位置づけていますが、地域振興の大きな課題の一つが産業の振興です。産業の振興なくして地域の活力は生まれえない、との観点から、歴史・自然などの本市の豊富な地域資源を最大限に生かして産業振興に繋げていくこととしています。

さらに、地域の活力が存分に展開されるステージとして、地域の発展を担保する必要不可欠なのが都市基盤であることは言うまでもありません。

そのため、市域内外の円滑な交通を促進する道路整備や、都市自体の魅力を高めるため中心市街地で進めている駅前北地区土地区画整理事業などの都市基盤整備を鋭意実施しているところです。



弘前ねぶたまつり 8/1~8/7

4. おわりに

高度成長期に建設されたインフラが更新期を迎え、維持管理や補修に、従前とは違った知恵が求められる時代です。多様化する社会のニーズに合わせたインフラの整備を進めることは、私ども地方自治体の効率的な行財政運営に寄与するものと考えます。

これらの視点からも、建設関係職員の技術力の確保は不可欠であり、全建の研修会や会員の交流を活かすことで、技術力の維持やさらなる向上が望めます。そういった意味で、全建の活動には今後とも期待しているところであります。

8月になると津軽の夜空を焦がす「弘前ねぶたまつり」が始まります。ねぶたまつりのヤーヤド一のかけ声で皆様をお迎えいたしますので、ぜひ弘前へ足をお運び下さるようお願い申し上げます。

※あずましい…「心地よい」を意味する津軽弁